

校再

江戸砂子

芝西窪
麻布平尾

五上

			一六五	和
		一四一	三	書
八	四			門
冊	架	函	號	類

庫	文	閣	内	
一七四		一六五		和
函		一三		書
五架	八冊	號	類	

内閣文庫	
番號	和 16513
冊數	8 (6)
函號	174 29



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



十九

白金

同品川領

馬込領
目黒

世田谷領
碑文谷

十八

品川

同郡

鈴森

大井

馬込領
池上
同
矢口

十七

三田

同郡品川領

二本楊

高輪

十六

麻布

同郡

平尾

十五

芝

豐嶋郡麻布領

西窪

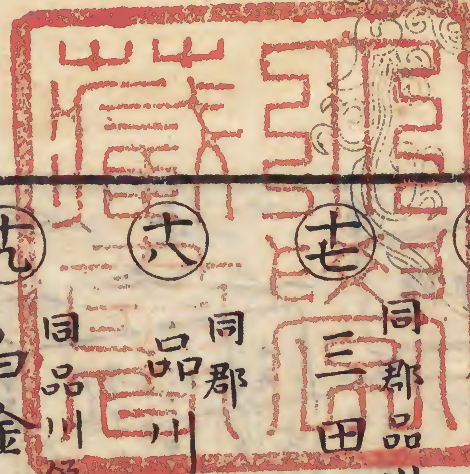
愛宕下

再校江戸

砂子温故名跡誌卷之五

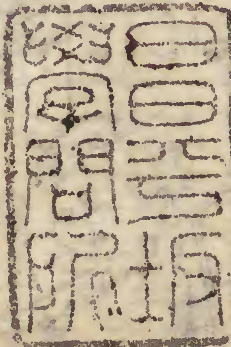
之五

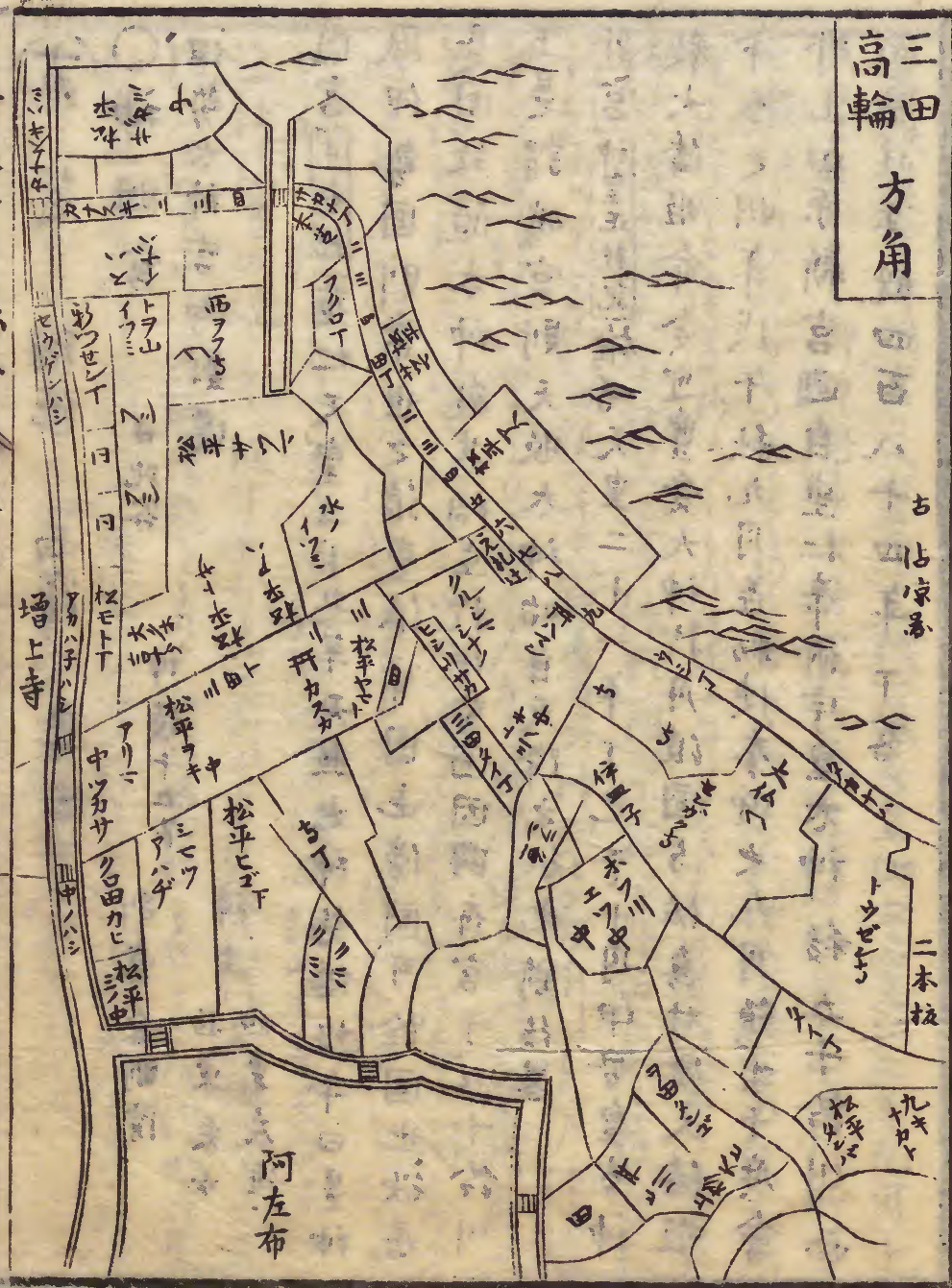
古帖涼簀纂輯
恒足軒再校
冬涉訂正



宣志圖書記

嘉永





十五 芝 溜池 西窪 愛宕下

神明宮 日比谷 神領十五石 別當金剛院

伊勢太神宮御影遷 神主 西東采女 西東左近

内宮日本紀垂仁天皇二十五年天照太神誨倭姫命曰是神風伊勢國則常世之浪重浪歸國也傍國可憐國也欲居是國故隨太神教其祠立於伊勢國因興齋宮于五十鈴川上是謂磯宮則天照太神始自天降之處也前後畧外宮神皇正統記雄略天皇二十一年丁巳冬十月伊勢皇太神教大倭姫命令迎豐受大神於丹波國与佐真井原大倭姫命奏之明年戊午秋九月差勅使奉迎之九月鎮坐于度會郡山田原新宮邇自垂仁帝御宇皇太神移五十鈴川西而至此年既四百八十四年下畧

當社飯倉神明宮八人皇六十六代一條天皇御宇寬弘二年九月十日日下ありて御神幣と大牙一枚は地は降り人民ありし所は七歳はりの兒女は從てのこましく我がれ伊勢西宮の神といはれ地は信人と從てありしは後世より其後百とせは神の御後より羽天皇建久四年保元朝天下野本非須中は後向の時初にありて宝剣と納一千二百金貫の神田と名所しは神饌朝と並に神光いやく日下小さく入り百四代後土御門天皇明應三年伊勢朝九帝氏茂相及小田原の城を大喪矣れと七十國あり威とありし物當社の神候と據るとしり神候と被すといふも修補する役もなりし年月と稱する又その後正親町天皇天正年中は社法寺の絶つと継すといふと與りしは神候神事ありしに於て除く又實永十一年御信教よりして神修造と加へせしは神候の光和光の月よりして利物の英はひはくはりしは神候と稱すといふ△當社祀代は今上寺の山にありて其代名と假令なり

補

○佐久間小路 兼房町より橋上ちまうり通西の始の小路より
前板右のあり芝長のまうりは少路南の角佐久間を困を横
小路西へ三折目佐久間日向後少路三折目佐久間松平代三折目
西の角佐久間大橋をなや一町の角は佐久間家五人の
やまきり

補

○梅屋敷 日南へゆく通武田長春院後やまきり

補

○三雲小路 日西へ二折目三雲折れたるやまきり

補

○田村小路 日三折目田村家をまの横通より

補

○日比谷稲荷 芝口三町目 別当本山修験 寂靜院

里渡日万治の頃此所は傘の具をひきく藍屋五五橋よりまの
りる付山伏とゆはりの小き宮と持身は山名後の森の
稲荷のまきりより上藍屋をまの稲荷とふく信仰より
りる山とよりりるの山と同一我々京都のまの山と
寂靜院より當地を縁りりるれく一夜山伏とや

補

芝中は稲荷の神を藍屋にまのまの地を踏んずき
新いこしは女房よま見とるしりるまのまのまの
一しりるまのまのまのまのまのまのまのまのまの
次中と御奉行所へつるまのまのまのまのまのまの
別りるまのまのまのまのまのまのまのまのまの
解系るまのまのまのまのまのまのまのまのまの
情まのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
りるまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの
日比谷三町の産土神く 祭礼二月初午

補

○芝口橋 日南と日比谷とまのまのまのまのまのまの

補

御門より芝口御門よりまのまのまのまのまのまの

補

と芝口町より享保のはじめの回祿ありて御門今ハナ

補

○芝井町 日比谷は所は芝井ありて芝井町を

補

○原助場 日比谷のまのまのまのまのまのまのまの

○油の井 原助所より丹波山家やき油あり

○長南崎 原助所の流の末海より

○新綾座 宇田川所海より

○寛永年中すくは所ある草紙の出入あり

○三崎町 細竹佐佐木中

○金杉場 細竹佐佐木中

○金杉大明神 今川

○金杉十一所の産土

○金杉場

○金杉大明神

○金杉十一所の産土

○金杉場

○金杉大明神

○金杉十一所の産土

補

地ハ今杉通りより

補

○新細所 今杉けいの下海

○牛尻 新あり町の内

○雑魚場 芝さる店の海

○御穂神社 本芝通西側

○鹿島神社 河内海手

○風土記 古老傳云昔有神女

○天而無羽衣 於是遂與漁父

○其後一旦取羽衣 乘雲而

卯の夏の頃春音ののどく神祠と堂様一勝軍の像と亭
んせんといつこの地可なりんや去庚子の年園系の役一勝
軍の法と脩一いつれの地りる、此こゝにて中より武州榑田
の村民内菟六郎山伏と即石河六郎其尉と命一と
奉行して地と流り基と開て飯袋を交ぬく九月より
功と竣く廿四日けいり、其後の散礼とゆき、山下に院を
指し春音の坊は通照院と号、今の系福寺其のこゝに其院は
今の令別院、善賢院、仙苑院、華苑院、法無院等と
神證字は春音後春香と改下野小入姓塩谷母皆川氏に
内藤六郎後山伏と成長と云派のりりて述と削らる
慶長十五年庚戌本社幣殿拜殿閣門悉御建立あり
元和二年丁巳ある徳野王子村より百石の地と山伏より
同廿年 釣命ありて沐院と退居と許る令別院におわ
終老すいづけく、此園山とあり下妻の俊賀和尚は賜

俊賀和尚字圓精 下野園人姓越路氏宇都宮孫之郎於綱
の後裔と下妻の圓福寺に存す

圓福教寺 智積院末 當山別當職 真言四ヶ寺の内

地主稻荷社 太郎坊、荒神、天王、各慶長十五年の造立

石壇六十八階 入りと男取と云 右の方に坂ありありあり

△本地堂 梵鐘あり 補 別當 金剛院

山上より東南を望み芝浦の眺望をきく、房総の山が

のふり、海上の風景形ありあり

補 梅川 あまを中一の流より榑田の流りあり

○小身小路 田村家の前の通

○敷小路 一いつこの下やに小路の四はあるの湖より教あり

萩板より、はくの後あれは、形より教令神ありあり

詠もあま、慶長より実水まで、所細川より、中一きこ

るのち、教もあま、所細川より、中一きこ

○勝ひらと云 土佐町と云りて赤羽あかと云るを廣小治るる所と
乃薩江戸城より望むの付は明もく人数と云るへられとて其
ありは三田へけく廣系と云るゆゑある人の形ありき

○真言宗

○愛宕山圓福寺

寺領百石

江戸志言四ヶ寺のこち

○摩尼珠山真福寺

弘法大師の草創

江戸志言四ヶ寺の内

本寺薬師如来弘法大師の作古記云武州芝の山中夜毎は
光明と云ふ法師ありて空海法師よりつるものもとて身
くまの山といひききひらの大石あり石より向く持巻あり
一は薬師如来を説く法師のすくんと彫刻とて
一言け云 彌人并天いづも後内あり
△千手観音 長久寺

○浄土宗

○三縁山廣度院増上寺

芝檀林 寺領一万五百四十五石

人皇百一代後小松天皇御草創開山大蓮社西譽上人聖聰大和尚

尊十二世中興開基貞蓮社源譽上人存應和尚

本尊阿弥陀

惠心作座像四尺

関東浄土談林惣本寺

本堂

東向

横一十間

縦三十五間

山門

釈迦

丈殊

普賢

十六羅漢

経堂

開山堂

代上人影像

方丈

鐘

厚サ尺余に江都才一の洪鐘なり

鎮守

熊野三所の社

安國殿

御別當

安立院

御佛殿

廿四日

御別當

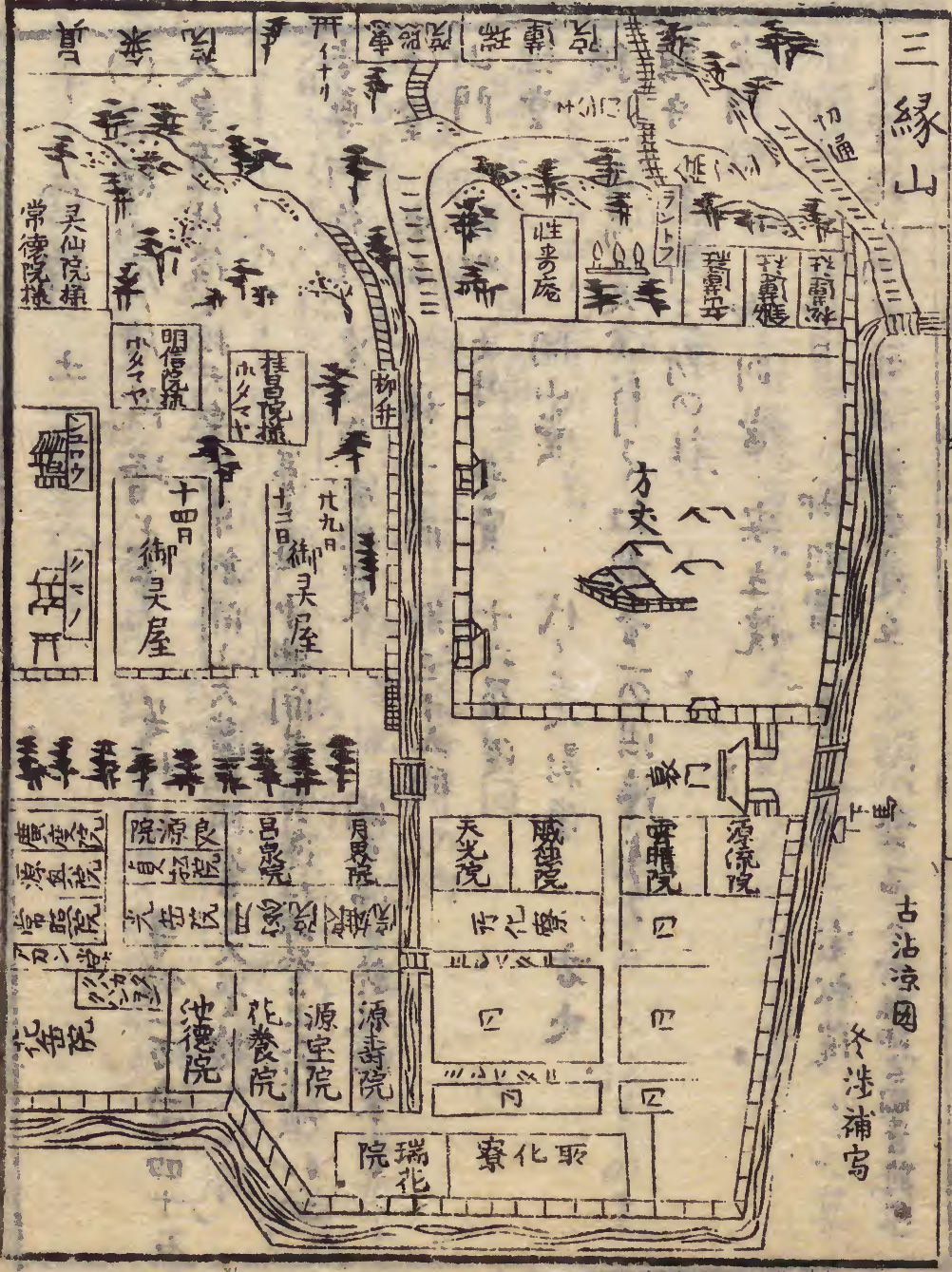
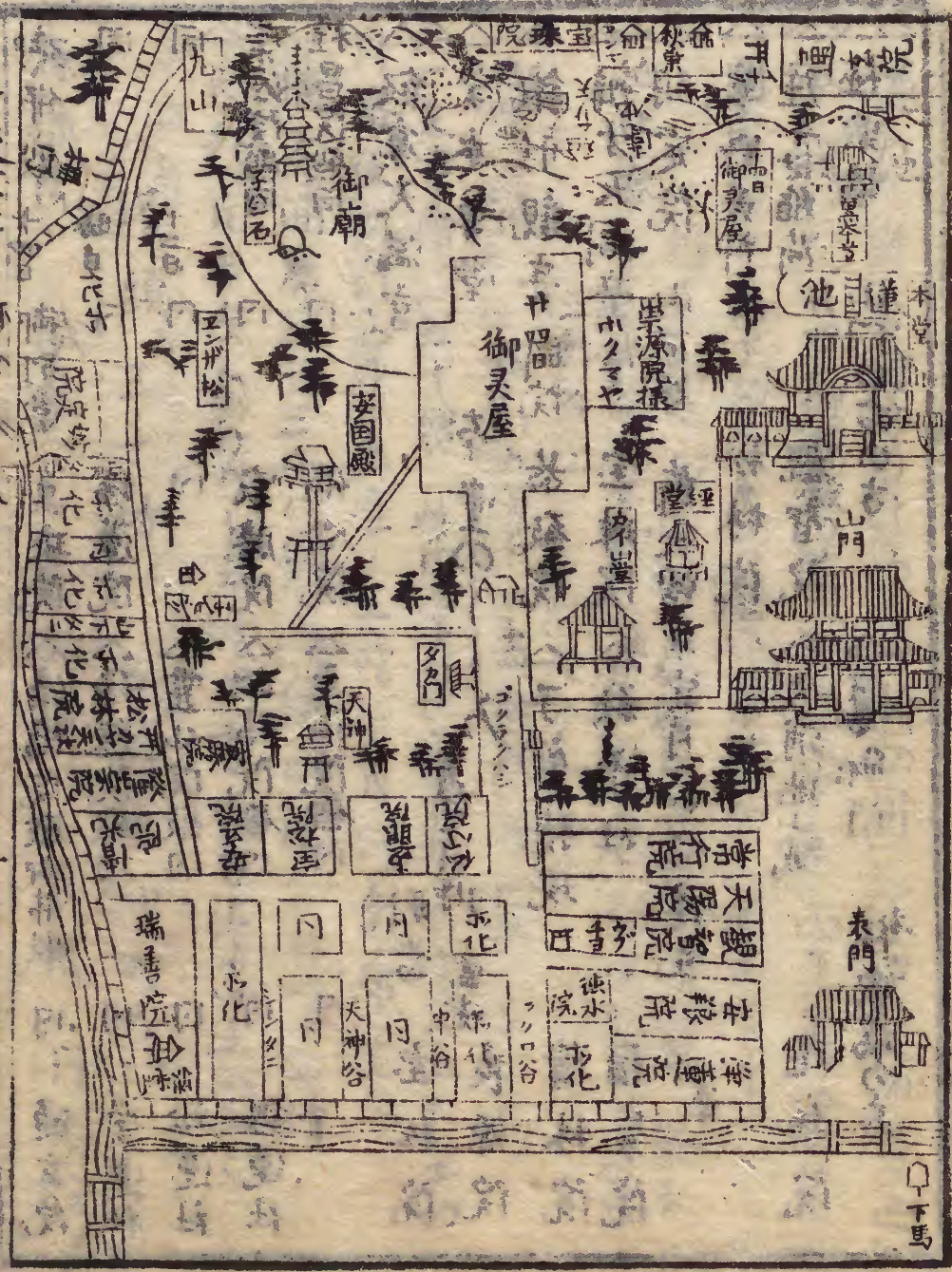
惠眼院

宝松院

五重塔

酒井雅樂頭敏建立

涅槃石△御雕師吉岡豊前作



御佛殿 十僧 御別當 真來院 △清陽院殿御佛殿 同 通玄院
 瑞蓮院 △淨徳院殿 同 宇蓮社
 同 十日 同 △靈仙院殿 同 松蓮社
 同 同 取勝院 △明信院殿 同 鑑蓮社
 崇源院殿 同 佛心院 △至信院殿 同 同
 桂昌院殿 同 同 別當 宝松院
 飯倉天満宮 同 山内孝以持 當時 良源院
 黒本尊堂 本堂のうしろ 同 清林院
 歙形觀音 別院 恭敬院 △子聖権現 福聚院
 辨才天 同慶堂 宝珠院 △秋葉社 同
 明定院 山下谷 前大僧正定月和尚建立
 茅野天神 松林院 大浦地藏 花岳院
 産千世稻荷 觀智院 △鷹御門 極楽橋のあ
 極楽橋 山門の右の方

蓮池 本堂のうしろ △柳の井 本堂の北卯塔の辺
 系 桜 北四御佛殿の前 △圓山 山下谷の西
 圓座松 山下谷の邊 補 △羅漢石 圓山ニアリ
 所化寮 三島谷 同中谷 神明谷 同中谷 同北谷 袋谷
 天神谷 中谷 南新谷 山下谷 同中谷 同西谷
 三軒谷
 御常念佛 御料五百石 惠照院 淨土律
 一文字席 五十僧 此内学以二膳より十二僧ハ山大衆の
 月番役執行しゆ上座十二僧と月行支席と云
 横木間席 三十八僧 △縁側席 六十三僧
 大衆凡三千余ありと云 誠ニ靈山會上より一き
 △塔頭 三十坊 各御朱印あり
 源流院 威徳院 雲晴院 天光院 月界院

再入工府路志 卷五

十五

補

昌泉院 貞松院 良源院 光岳院 円窓院
 良雄院 源宝院 源壽院 花養院 池徳院
 廣度院 常照院 源興院 花岳院 浄運院
 安粮院 天陽院 觀智院 常行院 徳水院
 瑞善院 瑞花院 借光院 隆崇院 林松院
 心光院 常念佛別院
 元禄七年才州二世念蓮社貞善上人了也自然和尚大僧正
 任してり相續して代り大僧正なり
 開山西善上人の弟總國千葉の人父千葉陸奥守平貞胤母
 新田氏之稚名徳千代九歳に千葉寺に出家
 言宗より卒徳二年了善上人は通院開山の弟子と成浄土
 門に入後武州赤松郡貝塚下勝地と得て一字と建立
 今今の増上寺なり永享十二年申七月十八日寂告七十五

補

第二世、明蓮社聰善上人西仰和尚と号、檜場法橋寺開山
 二世、喜善上人は江州甲賀の人望月外記の子に宝徳元年二月
 寺主たり太田道灌と交甚厚一日衆に示して云
 着、天地清濁色 五妙境界淨刹臺
 三 惡太坂阿鼻底 一 機不轉 古今交
 大宅と云ふや妙人小車のけりてと云はれりありて
 言おはれり堂より移り大車に乗る去世の知る所
 当山にひり貝塚よりり光明寺とひり貝塚よりり
 今麴町平河の邊に慶長のけりて芝の山に其のあり
 坊上寺と成り多敷地越後中將の山録にあり
 中興開山源善上人武州由木の人父由木大光源利重
 ▲由木武州在名七堂の年西堂と性日奉り日奉宗頼
 内舎人宗親其子宗忠西堂の祖と日奉り号奉宗十
 代ありあり源利重とあり日奉り日奉利重なり

再校正時各功志

六

再交工府名跡志

補

とけりの殉死五人の石塔あり前板性高院と園あり
寺草創の比貝塚あり後日比谷の邊は稱す芝長三
戌戌年八月今の比よりいふも貝塚よりありてその跡
松平越後守友中が祀りしといふ今平河天神のものと
元山との間にあり今も遠の内板あり寺の跡あり
いふもの比よりいふ今も上寺の持分ありといふ
あり貝塚といふ所も度きりありといふ

○光明山和合院天徳寺 知恩院末 寺領五十石 紫衣地 西産
人皇百六代後奈良天皇天武二年草創 知恩院宿寺
始号天知庵

開山三蓮社稱念上人中興開基十一世晃譽上人
晃譽智徳とありて大石高家宗少教りて寺院さし
榮壽院 撰取院 不斷院 光岳院 淨桂院
寺中 宝徳院 榮立院 教文院 榮開院 智相院
陽菰院 智学院 和合院 長元院 龍泉院

長谷院 译品院

○西公山壽向院大猷寺 同末 寺領五十石 日可

人皇百八代後陽成天皇慶長年中草創

開山儀譽上人 本寺運慶作 寺中 壽向院 金杉

○田中山相福院西應寺 坊上末 寺領十石

人皇九十九代後光嚴天皇應安元年草創

開山明賢上人 中興开基十六世存固和尚 正一位 稻荷

本寺阿弥陀 真心作 鎮守 正一位 稻荷

天正年中 台駕当山に入御あり開基の末由御尋ありて
寺依御寄附ありて存固和尚の附 鈞命ありて一夏九旬の
中法幢となりて一百餘人の不化となりて宗風の衰際とあり
當寺應安の開基ありこのうら三百余歳に及ひ境内も廣し

△朝日の松 へきかけ松 △火除の松 境内あり
宝曆の末當寺回禄はかりては松は焼くありと云

再交工府名跡志

卷五

塔頭 定林院

長受院

心定院

○演暢山法音寺 西巻末本芝

○影向山西信寺 坊上末本芝

○福臨山宗光寺 曰

○十劫山成覚寺 加恩 曰

○三法の若所如來の御入の事 ○海見山智福寺 曰

○紫雲山源光寺 曰

○心光院 三縁山塔中 芝乃塔塔

△孝念念佛 △千珠堂

△佐久間、下女の流あり 大傳馬町同屋佐久間平今下女

たけしりとの流く佛と信し水盤と光の奇怪の事あり

て伴の流くさ由院へおきむ毒く縁起あり

△當院より貞実を傳心の本像あり之流のあら坊上寺より

て多列の人小金の城之島城下野寺のそ孫也

○當院山内涅槃ののきあり 宝曆中當院へつり

補

○布引観音堂 くれも心光院と曰付は移り 曰可

慶長五年丹羽五郎長重奥列三本松より上國の村のり日
城下より出りけり。熊野道者の曲者くまわり行きてはる城は
駿足なりと感當りし者今より小石の白曲と云出りけり
然中多宿付來りも澤ありけり。後よりやけり人長重の如
らよと云くよ本を。多宿の下の名をく別名と云者とも
て秘藏すり。るる。又教もありけり。終は江戸に於て
所を科よりれ近と追ひせり。小村布一階と後傳の伝へり方
よし。ひ附く。この布一文をよ裁りぬ。乃者の名を改て布引
と云。せり。大坂陣陳もは。此の布をよ。せり。變に九
年正月廿四日御世界の後御信世の間より。此の布秘藏の
いり。此馬をれり。坊上寺に奉せり。此今の涅槃ののりけ
り。の工其。ち。境。も。芝原あり。は。新。放。相。も。せ
ら。る。相。島。れ。り。の。者。と。方。丈。より。附。き。り。あ。る。と。毎。月。廿
四日御名代多宿の胡七附より布引表の肉へのれあり。此

御名代と云く竹勝と称しての伝ゆる事あり一夜も遠く
るりし諸人の心感懐と信す年と称して布引死すは一
山その名もよき事と感懐のあり境内に埋る幅尺余る八尺
案して其の形をせし石塔と建つて行者文周方丈より清
ての石塔と云ふ事と堂と造馬頭観音と云ふ事あり
布引の観音と唱へあり文周の代と持ていへる人があり
○業師堂 切通山まきりあり 別當 一経院
○山伏塚 坊上寺之傍谷の四大本根二本あり本歴よりす
しれも先年山内よりは所へり

○禪宗

○万年山青松寺 曹洞宗江戸三ヶ寺の中 あつこの南
開山雲南後徳大和尚
文明の頃昔松何某雲南和尚と帰依し建立せしゆるの名字

補 補 補

と寺号より旧地負塚より天正の頃は此よりなり
塔院 清岸院 考壽院 信叟院 吟窓院 忠岸院
尚寺の昔松宮内より人建立せしよりと見ゆ事あり
しは自家寺松寺より北にその麴阿貝坂の南の邊
一町より尚ち境内よりありしは其の寺名後ありし
○勝林山金地院 五山僧録 寺領七百石 芝切通
開山大業和尚 大覚禪師宗師
元來京都南禪寺の金地院の宿寺なり
尚寺境内光福坂家の下申きことありし御城内よりありし
△楓 大木は境内よりありし御城内よりありし
△本寺聖観音唐佛 毎月十八日観音懺法あり
○金竜山福徳光寺 昔松末西庵 ○真珠山光室寺 寺跡あり 切通
○東雲山青竜寺 同 切通 ○
○一向宗 ○万輝山陽泉寺 保金寺 池の上

再抄... 卷五

○淨竜山澄泉寺 高田派 遍池の上

開山 塔院 常玉寺 正福寺 林折言寺

當寺 淺州稱念寺 同唯念寺 ありとも田派の江戸ニケ寺とい

あせり山寺と梅田澄泉寺より

○松林山安永寺 西末の寺中 淨泉寺 芝令杉

○梅上山光明寺 曰 梅む椿 水仙社上あり 西のくが

○南江山鍾覚寺 曰 令杉 ○長徳寺 西 本芝

○安永寺 曰 同中通 ○勸勝寺 東 芝

○光圓寺 東 西窓 ○光明山法泉寺 曰 曰

○撰取山専光寺 曰 西のくが

當寺も 偏比の南のくが坂の上よりわがくがも此傳の比

は可いづつとわがくが

○常陽寺 曰 令杉 ○向陽寺 曰 令杉

○徳念寺 曰 曰 ○法圓寺 曰 曰

○存明寺 曰 曰

○離欲山正念寺 曰 曰 補 ○靈山寺 曰 曰

○法華宗

○徳聚山圓珠寺 近末 令杉 ○妙光山法泉寺 女寺、坂々

○采門寺 池上末 池上本門寺宿寺 本芝

○松林山正傳寺 中山末 令杉

△毘沙門天 傳教大師の作 靈驗の像として毎月寅の日ハと

アツクけ 糸指 群集として 近年正月 初寅より 坊々ものハ大々

芝神明より 詣りの門前として 燈石とともめて 燈る 本ハ浴

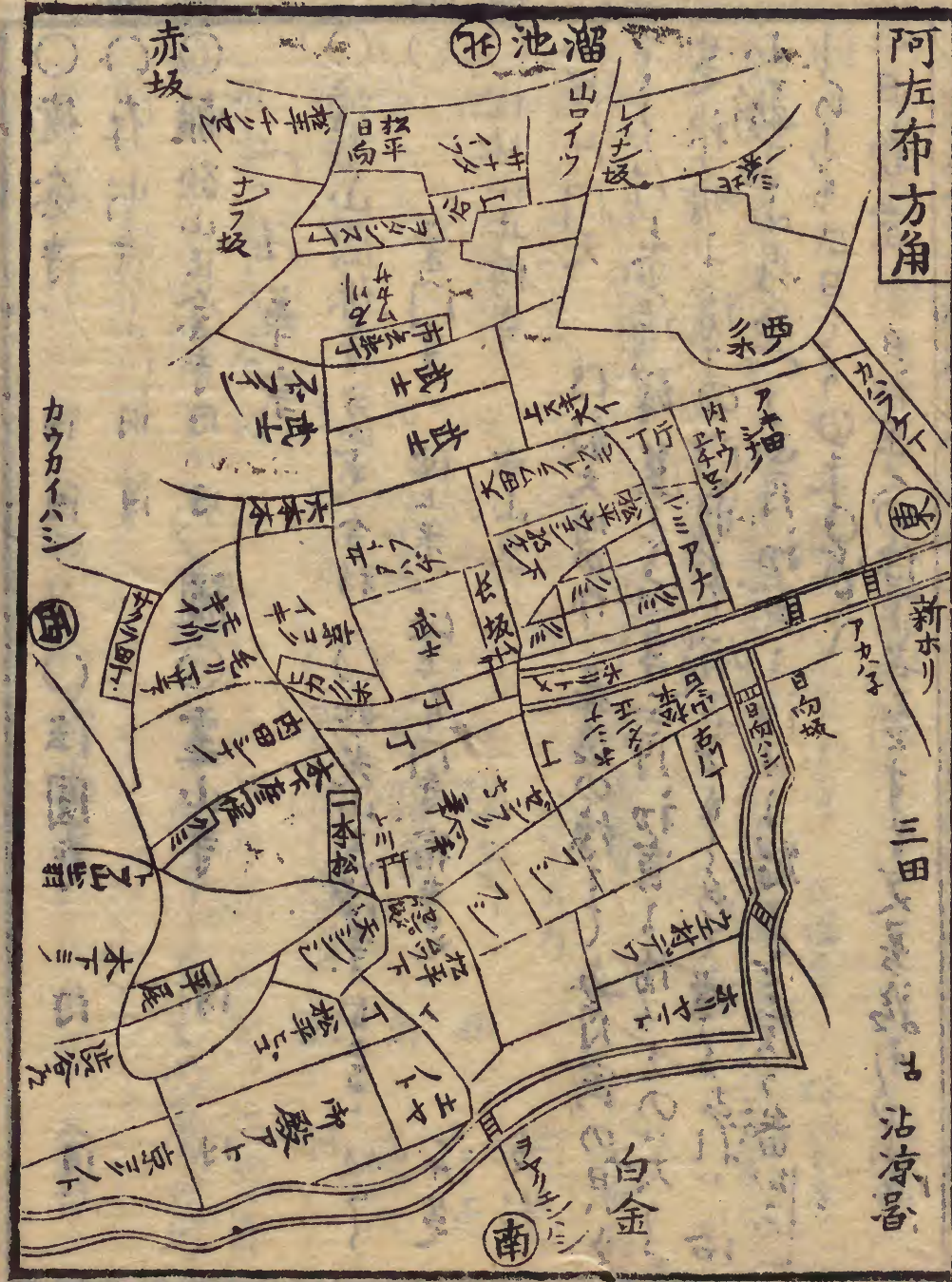
小舞ふる山 毘沙門の正月 初寅より 詣り 燈石とともる 番切

△日親堂 日親上人の像と母をすは又号法あり

再校工府名跡志 卷五

七

阿左布方角



十六 麻布 又阿左布と書 平尾

○麻生 又麻布 名浅生村 松土 梅田 谷町 市々湯町 六本木
 上町 雑色 ありつれは所の小名に麻布七村といふ
 麻布ハ矢盛庄七郷の内にておき名に麻布七村といふ
 近きよりいふに右赤坂の七村は市々湯町谷町の勢ハ
 所はなりてのふりりねりぬへ
 ○幸園谷 市々湯町の下 赤坂をれと
 ○なまご坂 市々湯町より今井ハ行谷町の坂といふ
 市々湯町より今井ハ行谷町の坂といふ
 ○紅葉屋敷 市々湯町 伊原依原は後やきさといふ
 ○市々湯町 市々湯町のふりりぬへ
 ○菰稻荷 市々湯町よりと古麻子より今つれのお
 よろふれは不動院の稲荷といふと市の人いふ

再校正府名抄志

丹波地方名所

補

補

補

補

補

△速即の楓ありし今枯り又根と栗の根より一丈ハシクして十文字よりあひあまらあひて枝をさきり是れ人ま即なりきり

○柳葉園橋 一名相模及橋 白令新堰より土屋お枝を後下を去のたつる少く信さくはけしとりの

○柳葉園坂 同玉の坂に柳葉園にあり又お枝を後下を去

○新堰 元禄の付けめ場上ま南の林系より掘通し

水上、渋谷川を通り并橋の川はまありの

○十番 同不く右堰りの附十番の榜尔杖流り

いしまありけおしは場あり代まりのまあるは列りてお枝を後下を去

○龍土 麻布百姓所の西今井よりくは地名ははあれし

後下よりし寛永のまはははれし龍よりて登る夜賊裏お

了しと云信流りて何れお枝を後下を去

は地名お岩下まありて彼おまは龍人へ云梅上彼おりり

地より、徳流の流師りておらる少くはりお枝を後下を去

○天台宗 佛閣

○七佛薬師 醫王山東福寺 上野末 柳葉丸人の

ある七仏薬師ハ傳教大師の化その中の一神なり今山寺

二世慈覺大師佛法弘通のめ園東へくよりお枝を後下を去

はなるとちりてくらりお枝を後下を去

城中はありめとくれしはの後神田よりし後又

崇徳院殿神達あり東嶽山のふもと廣小治よりし

又貞享元年は地よりつら多智寺特法人のまある

○妙祐山正善寺 上野末より 梅谷山春福寺 山王、さく田

○法隆山千藏寺 日 文下

○浄土宗

○長安寺 あり

○光明山深廣寺 日 上末 あり

○見生山崇巖寺 日 初穂、日

○遍照山光孝寺 日

○信余山教雲寺 日 日

○長廣山教善寺 日 日

○小涼山法常寺 日 日

再交工府名跡志

補

十六

- 源真山正信寺 日 日 ○西高山祇念寺 日 日
- 松宮山孝心寺 日 日 ○清涼山住心院 日 日
- 光明山遍照寺 教養寺 日 ○清涼山善学寺 坊上 市入丁
- 開山滅善社 院上人 開山生善上人 至和尙

○禪 宗

- 日東山曹溪寺 妙心、あし人 ○仙境山春桃院 妙心、あし人
 - 寺中 慈眼菴 碧芦軒 寺中 自遍庵
 - 妙陀山来泉寺 日 日 ○法廣山四沢寺 大田寺 日
 - 佛陀山天真寺 大徳、日本村 ○法基山大泉寺 大泉寺 日
 - 昌永山光雲寺 音松、日 ○法恩寺 日
 - 迦葉山盛徳寺 氷川社別當 上州沼田迦葉山末 日
 - 多聞山天現寺 京大徳寺末 日
- 日光山よ今稀 なるなり 以迦葉山よあやくわりのて 聞人感

補

補

補

補

歎すその外盡きありき多しとて今ついでに記
 他邦のよりあれし季一々の世に

- 毘沙門天 又法のる像々
- 光孝天皇御陵の塔 境内あり六尺はらの石燈塔なり
- 慈眼山光林寺 妙心寺、あし人
- 開山盤珪和尙 坊上寺も市入米町の邊あり
- 法 華 宗
- 高林山法典寺 小俣、坊上 ○芳住山長耀寺 坊上、坊上
- 清徳寺 日 日 ○松栄山妙経寺 日 日
- 口采山妙祝寺 日 日 ○明尺山本光寺 坊上、坊上
- 日通山妙善寺 日 日 ○法久山安全寺 坊上、坊上

丹波工守志

七二

○女樹山長草寺 曰 〇今井山光隆寺 光隆寺、曰

○廣栄山法雲寺 小名曰 〇妙光山末泉寺 妙光寺、曰

〇一向宗

○麻布山善福寺 西仏 寺外十石 雑色町

開山了海上人 教書上人のまゝに 當寺世俗あり少後と云

本寺法池 真心の作

當寺は古く天台宗より開山了海上人まで凡四百余年の

古跡ありて之を教書上人常陸の石河より由系の時ある

に到着あり津法印のより了海信一信上人のまゝと

なりて一向宗の行者より了海宗の所場ありて

藏王権現 一々麻布権現 本堂の南に海堂ありて

開山了海上人遷化の期よりしては我滅しては

りしかく當寺の宗せとちりて七月十日寂 毎斗

當日角力あり林の心也 〇毎年十一月三日開山の身試

けしめ山号と名を山とて當山名をのちらに似たりと云

△杖息脚 右の方圓山老のちりあり教書上人當山

才のりし時法さしりてくは杖は杖系せとてそ杖は杖と

逆よりてありてのまに今大木に成枝系ありて乳せき婦人

は木とりて瘡したる瘡ありて樹と裂ありて杖系い

くしよりて杖と名をのちりて今ハ杖供といひ

し其のちりありて逆浪ありて

△楊枝樹 弘法大師開山の時やれとけりて杖七

杖よりて大木とちり其楊枝は白き麻布の旗のありて

一流よりてりて當寺と麻布といひてその後多分

ありてより天台の吳場といひ杖は杖と一杖あり

△は麻布の流甚信と麻生の地を麻のけりて布のりて

わたりて又は麻生といひて麻の流といひて地よりりて

浅きとて古来の所國姓と麻生とては古来と傳へ

補

ははは水に廻り上人庵の向中より山崎の山の水くま
りはは七井ありくまの地二ヶ井あり

今楊柳水より近年孫定福の碑あり

△あり柳古木枯てまよまよ水傍の柳より山崎行寺

塔 中光寺 長生寺 合意寺 福泉寺 西福寺 降泉寺

長通寺 降泉寺 長福寺 祐名寺 長興寺 西寺

○松本山徳正寺 長福寺あり

○降泉寺 日 日 日 日 日 日 日 日

○福泉寺 日 日 日 日 日 日 日 日

○明行寺 東 日 日 日 日 日 日 日

○西福寺 日 日 日 日 日 日 日 日

○降泉寺 日 日 日 日 日 日 日 日

○西光寺 西 日 日 日 日 日 日 日

○廣行寺 日 日 日 日 日 日 日 日

○長坂



